

医療・健康セミナー

がんと向き合う
～ 家族が支える、地域が支える、そして、みんなが支える～

報 告 書

共 催 : NPO法人 キャンサーリボンズ
川崎市立麻生図書館

2010年3月14日(日)



読書のまち・かわさき



開催概要

3月14日(日)に、麻生図書館とキャンサーリボنزの共催で開催された医療・健康セミナー「がんと向き合う～家族が支える、地域が支える、そして、みんなが支える～」は、NPO法人と公立図書館が協力して地域に情報発信していくという、おそらく全国でも初めての試みでした。

日 時 : 2010年3月14日(日)
会 場 : 麻生市民館 視聴覚室 (神奈川県川崎市麻生区)
参加者 : 50名
共 催 : NPO法人キャンサーリボنز ・ 川崎市立麻生図書館
プログラム :

- *「みんなで支えあう、これからの“がんケアネットワーク”のあり方とは」
講師: 福田 護 (キャンサーリボنز理事長、聖マリアンナ医科大学プレスト&イメージングセンター院長)
- *「しんゆりリボنزハウスの取組み～麻生図書館との連携がスタート～」
講師: 岡山 慶子 (キャンサーリボنز副理事長)
- *「がんに関する本の紹介」
講師: 舟田 彰 (麻生図書館)

セミナー後、多くの方がしんゆりリボنزハウスを見学されました。



川崎市立麻生文化センター



麻生図書館内に設置された、しんゆりリボンスハウスコーナー



「挨拶」
麻生図書館長 池原真さん



「がんに関する本の紹介」
麻生図書館 舟田彰さん

以前から、カウンターに座っていると来館者から医療情報や医療の相談を受けることが多く、そんな方に役に立つ図書館として医療情報をお届けしたいと思っています。公共図書館は家庭医療書が中心ですが、入門書、ガイドラインなど、さらに情報量を充実させ、病例に即して広げていきたいと思っています。
図書館もだんだんよくなる。しかし本を読んでもわからないことがある。わからない時には相談してくれるところを紹介するというのが図書館の役割です。これからの日本の大きな流れになりたいと思います。身近な図書館がその自覚を持っているということを皆さまへお伝えしたいと思っています。

「みんなで支えあう、これからの“がんケアネットワーク”のあり方とは」

福田護(がんセンターリボンズ理事長、聖マリアンナ医科大学プレスト&イメージングセンター院長)



【講演概要】

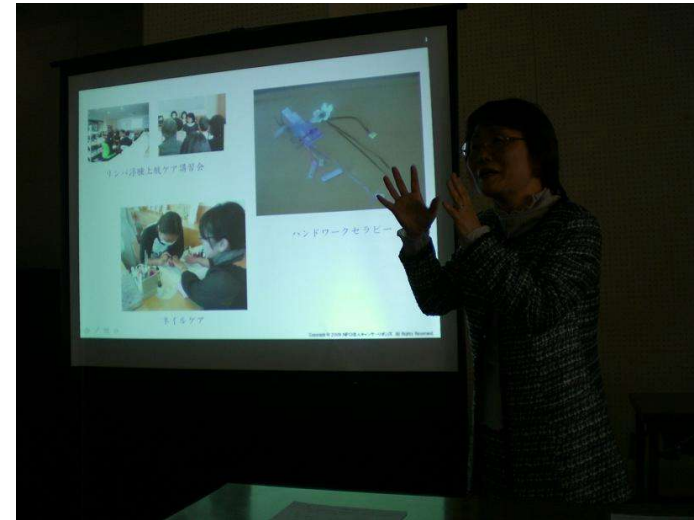
昨年3月に聖マリアンナ医科大学のプレストケアセンターができました。そして乳がん治療とはちょっと別にがんセンターリボンズができました。このNPOがどのような社会をめざし活動をしているか、そしてみんなで支えるこれからのがんケアネットワークとは何かをお話したいと思います。

医療者、患者さん、家族、社会全体でネットワークを作ることが日本の社会にとって必要です。患者さん中心のがんケアを入院中は専門家が担うことができますが、社会の中では、患者さん中心に専門家がケアすることは不可能です。核家族化、短い入院期間などにより、患者さんたちは社会のサポートも受けながら自立していかなければなりません。患者さんが社会との関係性の中で自立するために、リボンズハウスではさまざまなテーマに取り組んでいます。

情報に関して、「知る」ということは「全体を知る」ということです。全ての情報を知りうまくシェアすること、また氾濫する情報から適切な情報を得るためには情報を整理し発信し得ることが大切です。しんゆりリボンズハウス本部にはリソースセンターもあり情報を検索できます。日本でがんの情報を病院の施設内ではなくて街角で得ることができるのは私が知る限りここだけです。情報を得ることは大変です。情報を整理する。情報を発信する。情報を発信するシステムを作る。情報を共有する方法をつくる。情報を消化できるようにする。情報を活用できるようにする。このような情報を作り、整理する能力がある『図書館』は地域に根ざし、ぬくもりがあるので、がんの情報センターになり得る一つのモデルとして大変夢のあることです。明日の勇気や元気につながるように活動にご支援いただけることを期待しています。

「しんゆりリボンスハウスの取組み～麻生図書館との連携がスタート～」

岡山慶子(キャンサーリボンス副理事長)



【講演概要】

図書館とNPOはどのような交流ができるかと私なりに考えてみました。それぞれがお互いを紹介し合う、ツールを交換する(冊子、DVDなどの資材)、NPOの理事などの著書を紹介する、NPOと図書館とが共同でコーナーをつくる、リボンスハウスで図書の新着紹介をする、図書館にがん支えあい応援グッズを置いていただく、お互いにアドバイスや意見を交換する、共同イベント(NPO理事の講演会、チャリティイベント、読書会、ブックフェアなど)を開催する、共同研究、など多くの交流ができそうです。

日本全国にリボンスハウスが設立されています。もうすぐ設立される予定のリボンスハウスもあります。社会の発展のためには地域が活性化することが大切です。地域が活性化するためには地域の方々のお互いの助け合いや情報の交換などが大切です。現代注目されている概念にサステナブル社会(持続可能な社会)ということがあります。そこでは、「Think global Act local = 考え方は世界に通じ、行動は地元で。」というのが原則です。

麻生図書館としんゆりリボンスハウスの連携が、全国に先駆けてスタートしました。これをきっかけに全国にこの取り組みが広がることを願っています。地域から始まったこの連携が日本中に広がり、そして世界に広がっていくために皆さまのお力をお貸し下さい。

会場の様子



【参加者からのご感想】

遠くから駆けつけた甲斐があった会でした。とても感動しました。新しい可能性が見出された会でした。キャンサーリボンズと図書館がつながる瞬間に、私達も立ち会ったのですね。その意味を、今度は私自身が考え、次のアクションにつなげていきたいと思います。館長さんの言葉も胸にしみました。「街の身近な図書館が発展することが大事」。それには、福田先生がおっしゃったような、「温もりのある情報」が必要なのでしょう。プロフェッショナルの手厚いエビデンスに支えられ、それでいて、きめ細やかな患者さんの視点という点がすばらしく、私たち医療人こそ見習うべきと痛感しました。